

東部2地区その他意見（自由記入）

（第三小学校）

①吹上小・中が地区割で中央部となっているが、吹上・塩船地区は、第3小・中とのつながりも強く、過去の経緯より東部2地区として、再編案を検討した方がベターと考える。再編後の施設の利用方法についても、要検討事項として熟考してほしいと思う。

⑤施設一体型小中一貫教育について（補足）

〔期待すること〕

- 1 長期的教育で、児童・生徒それぞれの能力を見極めた教育が可能になることを期待します。
- 2 一貫教育で、年齢差の離れた関係での社会生活への適応性を養っていただけることを期待します。

〔不安要素として〕

3 いじめ等の人間関係発生時に長期にわたる関係となるため、逃げ場のない状況が発生したときの対応を考慮する必要があります。

⑥（1）現状、学校は災害時の指定避難所となっています。再編により廃止される場合でも、その機能が維持されることを望みます。できない場合は、代替施設を設けていただくことを希望します。

（2）他地区（中央部地区）のことになりますが、吹上小学校・吹上中学校学区の東部（吹上、大門1丁目の一部、塩船）は、学校施設拡大前は第三小学校・第三中学校学区であり、地域的にも大門地区としてまとまっているところです（自治会活動など）。再編により吹上小学校・吹上中学校が廃止となる場合は、当該地区の就学校については十分配慮願います。どの学校が残るのか承知していないので具体的な意見は控えますが、個人的には、第一小学校・第一中学校に通うということは想像できません。

（新町小学校）

②東部2地区再編案AとBの2択の意見収集になっているが、小規模校を残す選択肢もあるのではないかと。「青梅市学校規模適正化基本方針」に沿った形で案が出されているが、この「適正規模」が本当に子供達のためになるのかに疑問がある。（もちろん財政面ではデメリットだろうが）。少人数の方が先生と生徒の良好な関係が築きやすいのではないかと。不登校や発達障害がある子供などの対応はどう考えているのだろうか？

③当日の説明では、人口推計に基づいた児童・生徒数の減少、学校施設の老朽化、学校規模の適正化など、行政の立場からみた理由づけが全面に出ている印象を受ける。ただ、教育の主役は子どもたちである以上、子どもの立場に寄り添い、子どもの事情を中心に考える必要がある。

その点で、今回の学校再編案は、子どもと保護者の負担を大きくするだけで、子育て支援の方向性に逆行し、人口流出を加速させてしまうことになりかねないと危惧する。

例えば、今井小、藤橋小の位置にそれぞれ分教場を設置し、小学校1～4年生までは分教場に通うことを認めるなど、両校の廃校を前提とせず、柔軟に対応する必要があると考えます。

⑤出来レースにしないで

⑤新町は1～3丁目を新町小・中に戻す案もありでは市民センター毎の学校の役割（市民センターによっては複数の学区あり）その中の青少健等、自治会等の分け方

⑤青少年協議会委員は減るのか（1校1人）

⑤先生方の意見は聞かないのか

⑥青梅市は面積が広く、通学となると不便を感じる。

将来、路線バス、JR 青梅線の運行がなくなる可能性も考え、スクールバスの運行もご検討いただきたい。

⑥通学距離が長くなると、事故のリスク（交通事故、誘拐、熊等）が高くなり心配です。少子化になってくると、1人でも長距離を歩かなくてはいけなくなる。

⑥市民の各市民センターも老朽化していますが、同じ場所に設置したりするもの良いかと思えます。

(今井小学校)

①今井地区は分校が設置されていたことから自明ですが、第三小学校から遠いエリアである。それが分校「すら」ないということは、幼い小学生(1~4年生)にとって就学環境として戦前並となることではないか。実際に通学する児童の心身に過度な負担になることは、今井地区の未来に多大な影響があると予想される。子どもの発達の観点からも再編についてご検討ください。決して、人数や距離といった数だけの議論にならぬようお願いいたします。

②意見として、小学校の在り方としては資料2のb案が一番適切と思った。再編後の児童数、学級数も望ましい規模を満たしているし、多少増減しても維持できる範囲である。中学も今まで通り、施設分離型がよい。施設分離型のメリットは、小学校で何らかの原因で学校へ行きづらくなったり、不登校になってしまった児童が、中学校で新しい先生や友人に出会えることで学校生活がリセットできることだ。よく中学進学時にギャップを感じて不登校になってしまった「中1の壁」というのも聞かすが、その逆もある。むしろ近年中学受験が多くなった背景には、中学では頑張りたい、中学ではやり直したいと思う小学生が多いからではないだろうか。施設一体型の場合、9年間メリハリがないまま学校生活を送るため、もし小学校で不登校になってしまった児童が気持ちを切り替える機会がないまま中3まで不登校になってしまうのではと考えると、子どもの成長のためにはデメリットでしかない。小学生のうちには小規模校で教職員の目が行き届く範囲で手厚い教育を受け、中学では小学校とは違う新しい学校生活の中で内面的成長を育むのが、子どもにとって一番良いと思う。そもそも論として、東部2地区の課題は藤橋小の存続問題だけですか？単純に今井小と藤橋小を統合して、建物を建て替えばいいだけの話ではないでしょうか？

③今井1丁目から第三小学校は、徒歩40分、バス利用の場合は20分となっている。公共のバス利用ができなくなることが予想されるので、バス通学の対応を検討してもらいたい。

④東部2地区において再編案A、Bともに規模、配置・通学を考慮して適正なのかとも思います。

小中一貫校は建設費やその後、長期的な事を考えると施設一体型が良いのではないかと思います。

補足：今井(金子橋付近)から徒歩は実際に毎日通学するにはかなり距離と時間があり負担は大きくなるかとも思いますので、その時々の児童、生徒の分布によって人数が多い場合は通学バスやコミュニティバスなどの一時的な活用も視野に入れておくの良いかとも思います。(他の地区でも同様)

学校施設が地域のコミュニティや防災拠点となる可能性もありますが、地域が広くなりすぎてしまいますので、その時の住宅分布等を考慮して学校とは別に考えた方が良いのかとも思います。(商業施設や図書館、公民館など一体型で小規模でも良いかとも思います。)

※後世に負の遺産を残さないようにしたいですね。

⑤学校再編の考え方に異議はございません。時代に合わせた学校教育を目指して、今後模索していくようでございます。現在、子育てしている親御さんの意見を聞く機会があってもいいと思いました。

⑥通学地に関して、徒歩40分は小学生にとってはかなりの負担となる。通学路の歩道スペースの確保、スクールバスまたは、公共交通機関などの積極的な導入の検討をお願いしたい。

再編によって、支援級等についてはどのような形になるのかお示し頂けるとありがたいです。

学校選択制の考え方の検討はあるのでしょうか。

⑦5~60年前は、三小・三中は今井分校、新町分校等から4年で本校(3小)に再編であり、自分としては問題無しに思える。

⑦低学年のスクールバスが不可欠になる。

(藤橋学校)

①現在藤橋小学校から当法人の老人ホーム青梅療育院へ6年生がボランティアに来ていただいています。私自身同じこと行い育った環境でしたので、お子さんが少なくなり再編しなくてはならないとは思いますが、高齢者福祉も地域包括ケアが進んでおります。住み慣れた地域で子供も高齢者も学んでいける環境づくりが必要と感じます。

②小学生時代は青梅市統合前で、調布村尋常高等小学校に在籍しており、各町村の小学校から中学校まで一貫した教育が行われており、そのため自宅から学校まで2~3kmもあり、小学校低学年には心配な面もありましたが、登下校の際には必ず上級生が先導しており、当時は自動車も少なく交通事故の心配もなく通学していた。

現在は自動車の交通量も多く、低学年には遠距離通学は多少苦難ですが、1クラス20名以下の学年では、学校教育として果たして望ましいものなのか、むしろ多数の同級生によって楽しく学習ができることが望ましいと思う。1クラス35名以上のクラス編成が可能な学校再編成が望ましいと思う。

(第三中学校)

②吹上小・中が地区割で中央部となっているが、吹上・塩船地区は、第3小・中とのつながりも強く、過去の経緯より東部2地区として、再編案を検討した方がベターと考える。

再編後の施設の使用方法についても、要検討事項として熟考してほしいと思う。

③40年前に3小・中の生徒数が増えたため、吹上小・中が出来たのだが、単純に戻せば通学の面はOKだと思う。吹上、塩船地区から3小・中へは信号も1.2基しかないので親も安心です。

今井小と藤橋小をつけるのも有りだと思う。自治会は藤橋・今井は連合会のため、自治会の見守りもやりやすいと思う。新町小・中は一部近い泉中・霞台小・若草小もありかと思う。

現学区ではなく、町や丁で区分けするのもありだと思う。例として、現3小学区プラス大門3丁目、野上3丁目、塩船、吹上など…

④自治会の会員が減少し、自治会や学校運営協議会委員だけでなく、広く地元の住民から意見を聞く必要があると思います。

④自分は新町・末広地区の民生委員として、学校運営協議会委員となっていますが、担当の新町小・新町中以外の距離感があまりつかめていません。

⑤再編に向けて様々な課題があらうかと思いますが、基本的には時代の流れということもあり、やむをえないことと感じています。

現状の学校が落ち着かない状況があることを目の当たりにして、小学校にも影響が出てこないか？という部分は不安要素としてあります。

それにあたり、先生の確保や、地域ボランティアの育成も根っこの部分ではあると思います。

具体的な方向性が決まった後にリスクマネジメントを考える機会が必要だと思います。

第二次ベビーブームの時代に三中の生徒数が多かったと話をしていますが、現状同じ年代の生徒の体力はどうか？精神的な強さはどうか？

子どもの精神面の負担も大きくなるのではないかと考えます。

不登校の問題にも直結することにもなり、その点ではあえて学校に行かない選択もありの前提で進めていくのも一つかと思っています。

様々なことを配慮しながら進めていかなければいけないと感じています。

⑦これからの人口動向を考えると、再編することに賛成する。意見なし

⑦案について、避難場所をどうするかを示してほしい

(新町中学校)

②1 学力が低下してきている現在(算数・数学)、どの学校形態が学力向上に向いているのか、説明がほしい。

2 人口が増えている、増えそうな地域への分厚い投資・支援を願う。

3 廃校となる施設の有効活用として、公共施設(教育・福祉・防災)を縦割り行政でなく横割り行政で有効運営を期待したい。

③東部2地区再編案A,Bとも、施設の位置を考えるとグラウンドを球技場と陸上競技場に分けるなどして、小中で共有し地域の緊急時避難場としての機能も考えて頂きたい。

体育館、図書室、音楽室、図工教室などの共有できそうな施設は考えて1つにし、教育上のコミュニティーの場としても良いかと思います。

⑤1 学校の統廃合による、避難場所の指定をどうするか。

2 特別な支援が必要とする児童・生徒への方策は何か。

3 学童保育クラブの設置…場と協力者の確保の方策

4 放課後子ども教室の今後の展開について

以上の4点について、今後の課題として検討をお願いします。

⑥東部2地区再編案A,Bとも、適正規模・適正配置は同じであり、小中一貫教育が施設一体型か隣接型かが異なるだけのように思える。小中一貫教育は同一施設を利用する事のコストメリット等が明らかでないならば、児童・生徒に対する教育そのもののソフトウェアに重点を置いて考えるほうが良いだろう。ハードウェアである施設等に極端に重きを置くのは納得感を得にくいと思われる。

規模が適正かどうかは、学校規模適正化基本方針に基づいているが、明確な理由があれば例外を認めていくのはどうだろうか。時代も変化し、教育の内容も変化する30年以上先のことを決めるのに今の尺度で判断して良いのか、今一度立ち止まっては如何か。

具体例としては、今井小を特認校として建て替え、体育館を防災拠点として活用すると共に、日常は地域イベント等に利用する市民センターの併設施設としての活用など、地域に根ざした学校施設に発展させると云うのはどうだろうか。

⑦再編案とは別の要望として、学校内のプールは室内施設としてほしい。そのために費用的な問題があるのであれば、授業で使用しない期間は、市民へ有料で解放する等検討してほしい。

できれば給食施設は、各学校内に設置してほしい。

A案もB案も再編後の学校の規模という観点ではどちらも大差ないが、移行期間となる建築期間中の仮校舎をどこにするか等、どのように学習環境の維持をするかが重要となってくるので、今後、具体的提案をいただけることを望みます。